

報告事項 才

美術常設企画展示「収蔵品でたどる 鳥取の美術250年」の開催について

美術常設企画展示「収蔵品でたどる 鳥取の美術250年」の開催について、別紙のとおり報告します。

平成23年5月19日

鳥取県教育委員会教育長 横 濱 純 一

美術常設企画展示「収蔵品でたどる 鳥取の美術250年」の開催について

平成23年5月19日
博 物 館

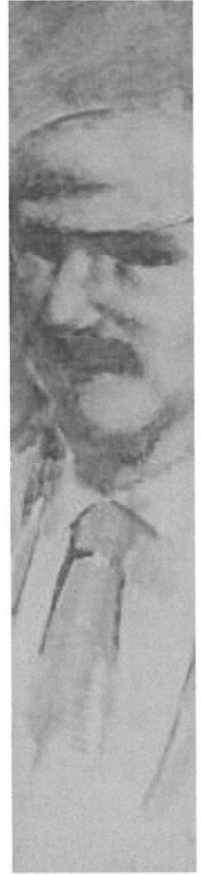
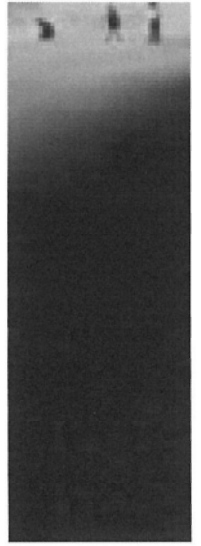
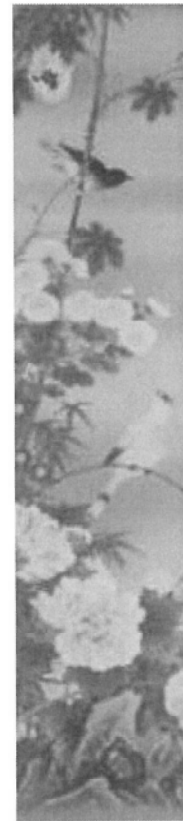
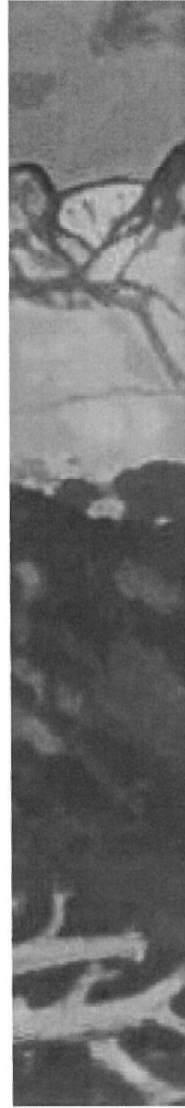
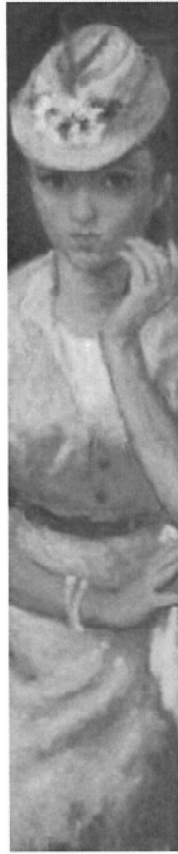
- | | |
|---------|--|
| 1 展覧会名 | 美術常設企画展示「収蔵品でたどる 鳥取の美術250年」 |
| 2 会 期 | 平成23年6月1日(水)～6月25日(土) 会期中無休 |
| 3 会 場 | 鳥取県立博物館 第1・2特別展示室、エントランスホール |
| 4 主 催 | 鳥取県立博物館 |
| 5 協 賛 | 日本通運、株式会社モリックスジャパン、株式会社吉備総合電設、三和商事株式会社 |
| 6 入 館 料 | 常設展示の入館料 一般 180(150)円
()は20人以上の団体。学生以下、70歳以上の方等は無料 |
| 7 概 要 | <p>鳥取県の美術は初代鳥取藩主、池田光仲が17世紀中盤に狩野派の絵師を登用したことに始まり、やがて江戸時代後期になって土方稲嶺、沖一峨ら多くの絵師が活躍します。以来、日本画から洋画、彫刻、写真、工芸といった多様なジャンルで、多くの作家が登場し、その活躍によって県内の美術は現在もなお発展を続けています。</p> <p>本展は、県立博物館の収蔵品の中から100点を超える作品によって、江戸後期から現代までの鳥取県の美術の250年のあゆみを紹介します。</p> <p>なお、この美術常設企画展示は、当初計画していた企画展「ジョルジョ・モランディ展」が東日本大震災のため開催見送りとなったことに伴い、計画を変更して開催するものです。</p> |

1 主な出品作家

- | | |
|------|--------------------------------|
| 近世絵画 | 土方稲嶺、片山楊谷、沖一峨、島田元旦、黒田稲臯、他 |
| 日本画 | 菅楯彦、小早川秋聲、八百谷冷泉、中島菜刀、他 |
| 洋 画 | 香田勝太、森岡柳蔵、中井金三、前田寛治、伊谷賢蔵、笹鹿彪、他 |
| 彫 刻 | 長谷川塊記、早川巍一郎、辻晉堂、山本兼文、他 |
| 版 画 | 橋本興家、野崎信次郎、岡村吉右衛門、他 |
| 工 芸 | 瀬戸浩、前田昭博、岡村吉右衛門、生田和孝、他 |
| 写 真 | 塩谷定好、植田正治、岩宮武二、杵島隆 |
- 〔展示作品：約110点、出品作家数：約50人(いずれも県ゆかりの作家)〕

2 関連事業

- ギャラリートーク(展示解説)
- 日 時；6月11日(土)・25日(土)両日とも午後2時から
- 場 所：展示会場
- 講 師：県立博物館学芸員
- 参加無料(但し、入館券が必要)



平成23年度 美術常設企画展示

収蔵品でたどる 鳥取の美術 250年

2011年6月1日(水)～6月25日(土)

会期中無休 9:00～17:00

鳥取県立博物館 第1・2特別展示室、エントランスホール

主催：鳥取県立博物館

協賛：日本通運、株式会社モリックスジャパン、株式会社吉備総合電設、三和商事株式会社

左から：瀬戸浩《雲のシリーズ'91》、岡村吉右衛門《鹿狩B》、笹鹿彪《少女》、小橋磐雄《提籃》、伊谷賢蔵《万年山早春》、菅橋彦《阪都四つ橋》、沖一穂《花鳥図》、土方稲嶺《東方朝園》、辻音堂《泰山》、塩谷定好《鳥取砂丘》、前田寛治《鳥打帽の男》（いずれも部分、鳥取県立博物館蔵）

※6月5日(日)から開催を予定しておりました企画展「ジョルジョ・モランディ展ーモランディとの対話 デ・キリコからフォンターナへ」は、3月11日に発生した東日本大震災の影響により、イタリアからの作品の借用が困難になったため、当面延期となりました。



鳥取県立博物館

TOTTORI PREFECTURAL MUSEUM

680-0011 鳥取市東町2-124

TEL 0857-26-8042 FAX 0857-26-8041

— 江戸後期から現代までの「鳥取の美術」を概観する —



鳥取県の美術は、初代鳥取藩主・池田光仲が1666年(寛文6)狩野派の沖清信を江戸詰絵師として召し抱えたことに始まったといえます。やがて江戸時代後半になって、土方福嶺、片山揚谷、沖一峨、島田元且ら多くの絵師の登場とその活躍により、鳥取の画壇は活発になっていきます。

明治初期には洋画家・高橋由一に学んだ遠藤董が鳥取に油彩画の技法を伝え、また、1887年(明治20)に開校した東京美術学校(現東京芸術大学)で学んだ香田勝太、森岡柳蔵、中井金三らの活躍と影響を受けた多くの洋画家が輩出され、その後も受け継がれ発展を続けています。特に、前田寛治の活躍は当時の青年画家たちに大きな刺激を与え、日本近代絵画史に大きな足跡を残しています。

日本画では、歴史画や風俗画に独自の画風を確立し、フランス政府勲章や芸術院恩賜賞を受けた菅橋彦や、山元春挙門下の小早川秋聲、八百谷冷泉、中島葉刀ら多くの日本画家が活躍します。

また、彫刻の分野では、官展出品の長谷川塊記や新制作協会創立に参加した早川巍一郎ら多くの彫刻家が独自の造形表現を展開します。中でも辻晋堂は、清新な木彫から陶彫と呼ばれる彫刻の新境地を切り開き、国際的にも高く評価されています。

本展では、多くの作家の登場とその活躍によって発展を続けてきた、江戸後期から現代までの鳥取県の美術の250年を鳥取県立博物館の収蔵品でたどりま。



- ① 土方福嶺《東方朔図》江戸後期
- ② 沖一峨《花鳥図》江戸後期
- ③ 小早川秋聲《氷雨降る宵》
- ④ 菅橋彦《遠流》1980年
- ⑤ 前田寛治《鳥打刺の男》1924年頃
- ⑥ 伊谷賢蔵《万年山早春》1968年
- ⑦ 岡村吉右衛門《鹿狩B》1994年
- ⑧ 菅橋彦《阪四つ橋》1946年
- ⑨ 長谷川塊記《ポーズ》1924年頃
- ⑩ 笹鹿彪《少女》1938年頃
- ⑪ 瀬戸浩《雲のシリーズ 91》1991年
- ⑫ 生田和孝《白流し踊手大鉢》1977年
- ⑬ 小橋繁雄《投籃》1996年
- ⑭ 辻晋堂《寒山》1958年
- ⑮ 塩谷定好《鳥取砂丘》1923年

主な出品作家
近世絵画 日本画 洋画 彫刻 版工 写真
土方福嶺、片山揚谷、沖一峨、島田元且、黒田福卓、小畑福升、他
菅橋彦、小早川秋聲、八百谷冷泉、中島葉刀、濱田台兒、他
香田勝太、森岡柳蔵、中井金三、前田寛治、伊谷賢蔵、笹鹿彪、他
長谷川塊記、早川巍一郎、辻晋堂、山本兼文、入江甲、他
橋本興家、野崎信次郎、岡村吉右衛門、長谷川富二郎、他
大坪重周、瀬戸浩、前田昭博、岡村吉右衛門、生田和孝、他
塩谷定好、植田正治、岩宮武二、竹島隆

とっとり県民カレッジ連携講座

▼ギャラリートーク(展示解説)
日時 6月11日(土)午後2時～
6月25日(土)午後2時～
場所 展示会場
喫茶「カフェダール・ミュゼ」
7月新装オープン!

▼観覧料

一般個人	180円
団体(20名以上)	150円
小・中学生、高校生、大学生	無料
70歳以上の方	無料
障がいのある方・要介護者等及びその介護者	無料
学校教育での引率者	無料



680-0011 鳥取市東町2-124
TEL 0857-26-8042 FAX0857-26-8041
URL <http://www.pref.tottori.jp/museum/homepage.htm>
E-mail hakubutsukan@pref.tottori.jp



- ▲アクセス▲
●JR鳥取駅からバスで
・100円バス「ぐるま」青コース「仁風閣・県立博物館」下車すぐ
・砂丘、湖山、真露方面行き「西町」下車、400m
・市内回り岩倉行・中河原方面「わらべ館」下車、600m
●JR鳥取駅からタクシーで約10分
●当館駐車場 19台駐車可能(なるべく公共交通機関をご利用ください。)

オフィス用品のことなら
モリックスジャパン
株式会社 モリックスジャパン
鳥取市商業町203-6 〒680-0912
TEL 0857-23-3641
URL <http://www.morrix.co.jp>

引越しは日通
フリーダイヤル ひっこしは にっつう
0120-154022